



京都舞鶴港の振興へ総力を結集 にぎわいが活力を生み出します

副会頭 安達 久和 日本通運株式会社 舞鶴支店長

京都舞鶴港の強化 充実する定期航路

京都舞鶴港は、舞鶴市にとって最大級の地域資源です。港湾機能の整備やポートセールスの強化などが進む中で定期航路も充実し、関西経済圏における日本海側のゲートウェイとして、重要性がますます高まっています。

貿易実績も右肩上がりです。平成29年の取扱貨物量は1,100万トンを越え、外資コンテナ取扱量では過去最高の13,402TEUになりました。

舞鶴商工会議所では、様々な波及効果が期待できる港の振興を強力に推進するために設立された「(一般社団法人) 京都舞鶴港振興会」に職員を派遣するなど、積極的に取り組むとともに、クルーズ船への「おもてなし」として各種の歓迎事業を実施しています。

観光客の受け入れ増でまちに活力

舞鶴市にとって、観光は新しい基幹的な産業になろうとしています。舞鶴の美しい自然や豊かな歴史・文化などを目あてに訪れる観光客は大きく増加し、とりわけ赤れんがパークのグランドオープンが大きな起爆剤になりました。市役所周辺から海上自衛隊北吸棧橋にかけての一角は多くの来訪者が行き交っています。

また、引揚記念館収蔵品の「ユネスコ世界記憶遺産」登録や、市内の近代化遺産が「日本遺産」に認定されるなど、次々と大きな観光資源が誕生し、一層の飛躍が期待されています。

舞鶴商工会議所としては、「海の京都DMO」、そして舞鶴観光協会など

と連携しながら、さらなる交流人口の拡大に努めているところです。

また、この5月31日に設立された、音楽を通じた新しい観点からの観光振興を目指した「舞鶴ミュージックコミッション(会長:多々見市長)」にも参画しています。

公共事業の受注を増やす取り組み

経済活性化は、まずは企業が「元気に仕事を続けられる」ことが、なにより重要です。このため、舞鶴商工会議所では、国や京都府、舞鶴市が実施する工事等を、市内企業に対して、優先的に発注するよう積極的に申し入れるなど、最重要課題の一つとして取り組んでいます。

労使関係を円滑に 懇談会など実施

企業にとって「労働者と使用者」は、対立するものではなくパートナーとして協力し、業績を上げることで元気なまちづくりを目指すものだと考えています。円滑な関係を築くために「労使の懇談会」を開催しています。

また、優れた実績や顕著な貢献をされている従業員の皆さんを表彰する制

度として、毎年「優良従業員表彰」を行っているのははじめ、キャリアアップや資格取得への各種の研修会なども行っています。さらに、会員事業所の従業員が退職される際の“退職金支払い”に備えるため、「従業員退職金制度」も設けています。

つるスマイル共済

万一の「死亡」、「入院」など、様々な保障に 대응する舞鶴商工会議所独自の福祉制度「つるスマイル共済」があります。会員事業所の福利厚生として役立てていただいています。

なお、保険・共済については、「PL保険制度」、「情報漏えい賠償責任保険制度」、「休業補償プラン」、「業務災害補償プラン」、「特定退職金共済制度」など各種の制度が利用できます。

経営相談や各種金融制度

舞鶴商工会議所では7人の経営支援員が、会員事業所からの様々な経営相談について、「寄り添いながら、きめ細やか」をモットーに対応しています。また、低利で有利な政策金融公庫の融資や京都府、舞鶴市の制度融資の「金融のあっせん」をしています。



機能強化が完成した舞鶴国際ふ頭



日本遺産に選ばれた赤れんが倉庫